



イオンタウン南城大里とその周辺

まちを、ひとつに。

バラバラの仕組みを整理した「南城都市計画」

大里・佐敷地域の多くは、那覇広域都市計画の市街化調整区域に位置づけられ、発展の可能性を持ちながらも、住宅や商業施設の立地に一定の制約がありました。一方で、玉城・知念地域では自然環境の保全とのバランスが課題となっていました。

南城市は2010年に独自の都市計画(南城都市計画)へ移行し、市域全体を見据えた一体的なまちづくりを推進。開発と保全の両立を図っています。

左の写真は大里地域。旧大里南小学校跡地には、2013年にイオンタウン南城大里が開業し、周辺では住宅整備も進展。人口増加の一因となりました。



南城都市計画では、県内最大規模の「風致地区」を指定し、緑地などを守っています。また、特定用途制限地域を設定し、一定規模の遊技場などの建築を制限し、南城市らしい景観を維持しています。

都市基盤の主な取り組み

1 地域をつなぐ道路整備



新開田原線

まちが変われば、まちをつなぐ道も変わります。市民生活や地域間の移動を支える市道の整備を進めてきました。また、国道331号の改良のほか、県事業である「南部東道路」も一部開通しました。

2 市民の足を支える公共交通



Nバス

コミュニティバス「Nバス」(2019年開始)やデマンド交通「おでけなんじい」(2016年開始)を運行しています。市民の生活の足を確保し、車を持たない人でも住み続けられるまちへ出発進行！

3 人が集い、憩う公園整備



グスクロード公園

大里城趾公園パークゴルフ場が2012年にオープン。2017年には、グスクロード公園がなんじいをあしらったデザインの遊具に全面リニューアルし、子どもたちに人気の公園になっています。

4 快適な環境を支えるごみ処理



美らグリーン南城

ごみ処理は南部6市町による広域連携で運営されています。最終処分場の整備には調整を要しましたが、輪番制のもと南城市に「美らグリーン南城」が整備され、地域で支える仕組みが築かれました。

5 安全・安心を守る防災



島尻消防 佐敷出張所

2009年、佐敷地域の消防体制が島尻消防組合へ移管され、2017年には出張所が高台へ移転。防災体制の強化が図られました。あわせて、防災放送のスマートフォン受信など情報伝達の改善も進められています。

6 行政機能を一元化庁舎統合



南城市役所 新庁舎

合併当初は4庁舎体制で運営されていましたが、2007年に大里・玉城へ集約。2018年には佐敷新里に新庁舎が完成し、行政機能が一体化されました。災害時の防災拠点としての役割も強化されています。

南城市の変化 ※住民基本台帳より



2006年1月

40,759人

2026年1月

47,325人



2006年1月

13,134世帯

2026年1月

20,648世帯

その他の「都市基盤」に関する取り組み

- 大城地区農業集落排水施設等 下水道整備
- 久高地区津波避難施設
- 市全域のインターネット光回線開通
- 南部東道路整備事業(県事業)
- 南城市公共駐車場(南城市観光振興拠点施設)
- 河川・道路・高潮監視システム

未来のために。



子どもたちの学びを支える、学校施設の整備

合併以前の旧町村単位では財政規模も異なり、学校や教育施設の整備は個別対応が中心で、更新の優先順位づけが難しい状況でした。

合併によって予算を市全体で再配分できるようになり、児童数の変化や施設の老朽化状況を踏まえた計画的な整備が進みました。この20年の間に小学校7校、中学校1校、幼稚園4園(現こども園)、学校給食センターなどの施設が改築され、子どもたちの学びと成長を支える環境が着実に整えられてきました。



各地域に分かれていた給食センターを、平成27年に新たな学校給食センターへ集約。最新設備のもと、市全体の子どもたちへ安全で安定した給食を届ける体制が整いました。



馬天小学校の新校舎

教育・子育ての主な取り組み

1 居場所を広げる 待機児童対策



船越小学校の放課後児童クラブ

民間保育園等との連携により、保育の受け皿確保を進めました。市立幼稚園は認定こども園へ移行し、学校施設内には放課後児童クラブを増設。子どもたちの居場所づくりに取り組みました。

2 切れ目なく支える 子育て支援



子育て支援センター「にこにこ広場」

こども家庭センターを中心に、妊娠・出産・育児を切れ目なく支える体制を整えました。子育て支援センターの充実に加え、病児・病後児保育、ファミリーサポートセンターなど、多様な支援も広がりました。

3 地域で育む キャリア教育



お仕事調査隊

小学校の「お仕事調査隊」や中学校の職場体験など、地域と連携したキャリア教育を推進しました。探究的な学習を通して、児童生徒が地域で働く人に学び、自分の将来や生き方を考える機会を育んでいます。

4 世界にふれる 短期留学・英語教育



夏休み海外短期留学

市内の中高生を対象に、夏休み期間を活用した海外短期留学を実施。米国での英語学習や異文化体験に加え、小学生向けには米国大学から講師を招く「ESLキャンプ」も行い、世界へ羽ばたく人材を育てています。

5 挑戦を応援！ スポーツ・文化



教育長へ成果を報告

スポーツ・文化活動県内外派遣補助金を創設し、県外等の大会に出場・参加する児童生徒を支援しました。スポーツや文化活動に励む子どもたちの挑戦を、地域全体で後押しする仕組みが整えられています。

6 学びをあきらめない 経済的支援



楽しい学校生活のために

経済的な理由で進学や学びを断念することがないように、無利子貸与型や返済不要型の奨学金を創設しました。入学準備金貸付、就学援助、子ども医療費助成なども含め、家庭の負担軽減を図っています。

改築した主な学校施設

- | | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| ● 玉城小学校(2006年) | ● 大里南小学校(2010年) | ● 知念幼稚園(2014年) | ● 大里中学校(2021年) |
| ● 知念小学校(2006年) | ● 玉城幼稚園(2010年) | ● 佐敷幼稚園(2015年) | ● 大里こども園(2023年) |
| ● 久高小中学校(2009年) | ● 船越小学校(2010年) | ● 大里北小学校(2019年) | ● 馬天小学校(2024年) |

その他の「教育・子育て」に関する取り組み

- | | |
|---------------------|---------------------|
| ● 市立図書館の整備、電子図書館 開設 | ● 子どもの居場所 開所 |
| ● 親子通園事業所「はっぴ〜」開所 | ● 市内小中学校へ一人一台端末等を整備 |
| ● 知念児童館 開館 | ● 南城市こどものまち宣言 |



南城市の民生委員・児童委員の皆さん

声をかけ、支え合う。

安心して、住み続けられるまちであるために

南城市には、今も地域のつながりが息づいています。一方で、人口増加や暮らし方の変化により、地域の関係性は少しずつ希薄になりつつあります。

南城市では、地域福祉計画の将来像に「一人ひとりを大切に、ともに支え、ともに生きる共生のまち南城市」を掲げ、南城市らしさのひとつである「つながりの力」を生かした地域づくりを進めています。

民生委員・児童委員は、地域の身近な相談役として、日々の声かけや見守りを続ける存在。何気ないゆんたくの時間が、孤立を防ぎ、安心して暮らせる地域を支えています。



高齢者宅を訪ねた「知名支え合い委員会」の皆さん。2人1組で定期的に地域の高齢者を訪ねると、自然とゆんたくが始まります。見守り活動が、笑顔と安心をつないでいます。

健康・福祉の主な取り組み

1 住み続けるための高齢者福祉



地域型センター

高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターに、「地域型センター」を設置しました。介護や健康、暮らしの不安などにきめ細かく対応し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる体制を整えています。

2 歩ける百歳をめざして介護予防



自身体操サークル

各地域でのミニデイに加え、いきいき教室、水中運動やトレーニング教室への参加費補助などを実施しています。自身体操サークルの輪も広がり、地域で楽しみながら健康づくりに取り組む人が増えています。

3 地域で理解を深める認知症



介護の目 講演会

認知症初期集中支援チームが、認知症の方やその家族を早期にサポートしています。認知症カフェや講演会を開催し、地域で理解を深めながら、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めています。

4 健診で健康を守る健康づくり



健康啓発劇

特定健診の受診啓発を続け、南城市の受診率は41.4%（令和4年度）で、国や県の平均を上回り、県内市部では1位となりました。生活習慣病の予防や早期発見につなげ、市民の健康づくりを支えています。

5 自分らしく暮らす障がい者支援



「野の花」の作業風景

障がい者基幹相談支援センター、地域活動支援センター「野の花」を設置し、市内に住む障がいのある方やそのご家族などからの相談に応じ、安心して地域生活が送れるよう総合的・継続的に支援を行っています。

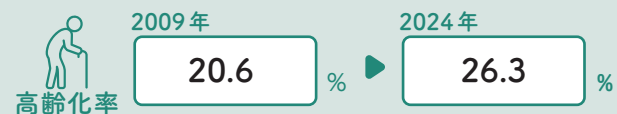
6 自立に向けた生活困窮者支援



相談風景

就職・生活支援パーソナルサポートセンターを設立し、生活や就労で困っている方へ伴走型の支援を行っています。住居確保給付金などの制度も活用しながら、自立に向けた暮らしの立て直しを支えています。

南城市の高齢化率



地域別高齢化率(2024年)

- 大里：22.6%
- 玉城：25.9%
- 佐敷：28.0%
- 知念：36.1%

その他の「健康・福祉」に関する取り組み

- 緊急通報システム
- 手話意思疎通事業
- 食の自立支援サービス事業
- 介護支援ボランティアポイント制度
- 個別避難行動計画
- 外出支援サービス事業
- Nバス運賃支援事業(高齢者、障がい者)

南城の恵みを活かす。

海と大地の力を、南城ブランドへ

南城市には、豊かな自然から生まれる多くの恵みがあります。鮮魚、牛乳や和牛、野菜や果樹など、多様な農畜水産物は、地域の暮らしと産業を支えてきました。

南城市では、かんがい施設や船揚場などの生産基盤を整えるとともに、肥料・飼料・資材などへの補助を行い、生産者の負担軽減と安定した生産を支援してきました。

また、観光との連携により農産物の消費拡大にも取り組んでいます。奥武島いまいゆ市場は水産物の消費拠点としてにぎわい、なんじょう和牛などのブランド化も進むなど、南城の恵みを地域の経済へつなげる動きが広がっています。



子牛の出荷を主としてきた南城市の畜産。コロナ禍で子牛価格が下落する中、2024年に「なんじょう和牛生産組合」を設立し、役目を終えた繁殖牛を再肥育して出荷する取り組みが始まりました。



奥武島いまいゆ市場

産業・観光の主な取り組み

1 南城らしさを商品に 南城セレクション



2025年度最優秀賞の「生もずく」

地域資源や歴史文化にゆかりのある素材を生かした優良な商品を認定する「沖縄南城セレクション」を創設しました。市産牛乳を使ったチーズ・アイスなど、南城市ブランドの発信につながっています。

2 特産品の拠点へ 地域物産館



南城市地域物産館

斎場御嶽駐車場に、市内の特産品を取り扱う南城市地域物産館がオープンしました。観光客が地域の商品に出会う場となり、特産品の販売や開発支援を通して、市内事業者の販路にもなっています。

3 経済効果も拡大 ふるさと納税



返礼品として人気のマンゴー

ふるさと納税の寄付金は、平成20年度の約650万円から、令和6年度には約3億5,900万円へと拡大。まちづくりに活用され、返礼品を通して特産品のPRや事業者の売上向上にもつながっています。

4 地域の物語を伝える 文化財活用



南城市ガイド「アマミキヨ浪漫の会」

各地域で活動していた文化財ガイドが結集し、南城市ガイド「アマミキヨ浪漫の会」が組成されました。斎場御嶽のガイドや地域散策を通して、歴史文化の価値を伝え、観光客の理解と満足度を高めています。

5 人と企業をつなぐ 雇用創出



合同企業説明会

2009年に雇用創出サポートセンターを開設。求人と求職のマッチングをコーディネートしてきました。合同企業説明会も定期的に開催し、市内外の企業と働きたい人をつなぎ、地域の雇用を支えています。

6 新産業を呼び込む 企業誘致



コストコ沖縄南城倉庫店

コストコの進出は、雇用や人の流れに大きなインパクトをもたらしました。また、旧庁舎跡地にソニー関連企業が入居するなど、公共施設跡地の活用も進み、新たな産業拠点づくりにつながっています。

主な農産・畜産・水産物

- ゴーヤー（2002年県拠点産地認定）
- 薬用作物（2004年県拠点産地認定）
- オクラ（2008年県拠点産地認定）
- マンゴー（2010年県拠点産地認定）
- さやいんげん（2011年県拠点産地認定）
- モズク（2023年県拠点産地認定）
- きゅうり（県内生産高2位）
- 乳牛（県内飼育頭数1位）
- 鶏卵（県内飼育羽数2位） 等

その他の「産業・観光」に関する取り組み

- 優良繁殖牛導入事業
- 優良乳用牛リース支援事業
- インキュベート・創業支援施設開所
- 全国ハーブサミット南城大会
- 農業基盤整備
- 斎場御嶽世界遺産登録20周年記念事業